

令和2年度長崎大学ワークスタイルイノベーション～働き方見直しプログラム～ 最終報告会 開催報告

【日 時】 令和2年12月25日（水）13：15-14：15

【場 所】 長崎大学附属中学校 多目的ホール3階

【参加者】 35名（藤本副学部長、附属中学校教諭26名、働き方見直し推進委員1名、ダイバーシティ推進センター5名、外部コンサルタント1名、報道関係者1名）

【プログラム】

- 13：15-13：17（2） 挨拶、趣旨説明（吉田副学長）
- 13：17-13：22（5） 発表① 英語科チーム
- 13：22-13：27（5） 発表② 技能教科チーム
- 13：27-13：32（5） 発表③ 国語科チーム
- 13：32-13：37（5） 発表④ 数学科チーム
- 13：37-13：42（5） 発表⑤ 社会科チーム
- 13：42-13：47（5） 発表⑥ 理科チーム
- 13：47-13：52（5） 発表⑦ 「仕事を開くPJ」について
- 13：52-14：02（10） 発表⑧ 保体科チーム、振り返り、展望
- 14：04-14：09（5） 総括（コンサルタント 吉岡様）
- 14：09-14：12（3） 校長先生より
- 14：12-14：15（3） フィードバックシート記入

1. 挨拶、趣旨説明（吉田ゆり 副学長）

働き方見直しプログラムは「働き方って何だろう」ということをもう一度見直し、できるところは可視化、情報共有、見直し、これを繰り返す、目標に近づくものである。

拘束時間が長く、突発的なことが多い学校で働き方改革を行うことは大変難しい中で、取り組み、成果を出していただいた。数値的にも改善がみられているが、大きな成果は意識改革であったと思う。また今回は「仕事を開く」にも取り組んでいただき、こちらも大きな成果であったと思う。これからも継続してできることは行っていただき、また学内の資源を有効にご活用いただきたい。



2. 発表

①英語科チーム

- チームの目標・ゴールイメージ：心身ともに健康な生活を送ることができるチーム
- 達成度：開始時 55%→現在 70%

■報告概要（発表者：石隈教諭）

- ・年休を取得しにくいという課題については、各学年の進度が共有できるようにホワイトボードを使い、情報共有の促進をはかった。その結果、昨年度よりも年休取得が増加した。
- ・突発的な業務対応により時間の確保が難しいという課題については、突発的な業務を1時間見込んで予定を立てること、ホワイトボードを活用して、見通しをもって業務に取り組むことにより意識が高まった。
- ・英語科教諭3名の時間を合わせる事が難しいという課題については、教科部会の持ち方、情報共有の持ち方（資料等をファイルに綴じて適宜確認できるようにした）を工夫することにより、時間を確保することができ、協議が必要な課題について時間を割けるようになった。
- ・これらの取り組みにより時間外在校時間が昨年度よりも減少している。

②技能教科チーム

■チームの目標・ゴールイメージ：悩みを共有し、前進するチームになろう

■達成度：開始時0%→現在60%

■報告概要（発表者：小八重教諭）

- ・課題としては一人教科ならではのデメリット、先を見通した仕事の確立などがあるが、紙上相談会や Todo リストの交流会によって一人教科ならではのメリットを実感すること、またメンバーの実践を知ることにより、解決策のきっかけをつかむことができた。

③国語科チーム

■チームの目標・ゴールイメージ：附中のことばの力を担う国語科

■達成度：開始時50%→現在70%

■報告概要（発表者：北村教諭）

- ・見えてきた課題の一つとして整理整頓があるが、これについては研究室の片付け、資料等の整理を行った。活用できる資料の発見もあった。
- ・計画的な業務の遂行という課題については計画表を作成し、進度も共有できるようにした。その結果、話し合いの時間を短縮することができた。
- ・授業進度の共有という課題については、ホワイトボードや文書の掲示を行い、共有の促進をはかった。
- ・プリンターを新たに導入することで、業務遂行が行いやすくなった。

④数学科チーム

■チームの目標・ゴールイメージ：職場でも家庭でも存在感があるイクメン集団

■達成度：開始時70%→現在80%

■報告概要（発表者：久間教諭）

- ・急な年休にも対応できる体制作りという課題については、プリント棚を設置し、自習課題を常に準備しておき、対応できるようにした。
- ・思いやりのある仕事という業務遂行に関する課題については、データ、フォルダ、ファイルの整理を行い、覚書を追加するなどした。
- ・定期的に数週間～数か月分の予定確認をすることにより、先を見通した仕事を行うことができ、家族の行事（子どもの行事）への積極的な参加や計画的な業務遂行という課題について解決に近づけることができた。

⑤社会科チーム

■チームの目標・ゴールイメージ：互いの思いや成果を共有し、高め合うチーム

■達成度：開始時 70%→現在 80%

■報告概要（発表者：古藤教諭）

- ・研究室、資料室の片付けという課題については、大規模な掃除や整理整頓に加え、日々の取り組みにより、新たな課題も見えてきた。
- ・情報の共有という課題については、共有ホルダーの蓄積、実物の共有、アイデアの共有を積極的に行い、次年度への備えを行っている。
- ・社会科教諭 3 名の情報共有の時間確保という課題については、ペアでの情報共有をつなぐこと、空き時間はなるべく研究室にいることを実践することを行っている。
- ・今後は整理整頓を継続し、さらに「新しい評価について」や「チームで補い合う方法」について取り組んでいきたい。

⑥理科チーム

■チームの目標・ゴールイメージ：互いの強みを出し合い、高め合うチーム～生き生きと仕事できるサポートをしあおう～

■達成度：開始時 55%→現在 77%

■報告概要（発表者：山田教諭）

- ・大量の不要物、廃液、故障備品の処理という課題が見えてきたが、処理や修理等行うことにより整理整頓が促進された。
- ・備品が点在しているという課題については、備品の整理と、ラベル付け等行うことで視覚化を図り、消耗品の重複購入回避や、余裕を持った購入、また教材準備の時間削減につながった。
- ・備品不足については大学に相談することもでき、新たな解決ルートを開拓することができた。
- ・共通理解の充実という課題については、ホワイトボード活用をはかり、円滑化に繋がった。

⑦「仕事を開くプロジェクト」について

■報告概要（発表者：橋本教諭）

キラリと光る仕事ぶりの先生方に、業務の効率化や整理の仕方等を御教示いただくことで、自分やチームの働き方を見直すきっかけとすることを目的に職員アンケートを実施し、リクエストが多かった4名の先生方に、実践例を示していただき、フィードバックを行った。具体的には仕事の整理、効率化（紙データ、デジタルデータの整理、机の整理）、備忘録、週案（iOS リマインダ、カレンダー、Excel）等を開示していただいた。このプロジェクトを通して、業務への取り組み方や思考の順序がより最適化され、効率よく業務を行うことができる個人・チームに成長していけるように感じている

⑧保健体育科チーム

■チームの目標・ゴールイメージ：教師力・趣味力 up で人として大きくなる！

■達成度：開始時 70%→現在 85%

■報告概要（発表者：溝上教諭）

・授業直前の準備に時間がかかるという大きな課題については、年間指導計画の見直しや、場所や用具の共有、機材や器具の購入（運搬用カート）、発掘（耕運機）、製作（ホワイトボードのキャスト）、学部からの物品譲渡（ホワイトボード、iPad）といったアクションを行い、時間の大幅削減という効果が得られた。

・教材研究の時間が限られているという課題については、教材（データ）の共有というアクションとなり、このアクション自体が教材研究となり、効率を上げることができた。

・教育実習開始後の多忙さを解消したいという課題については、学部との連携を強化し、指導案の早期提出を行ってもらうことにより、開始直後の指導時間を大幅に削減することができた。

・これら取り組みを通して、授業準備時間の削減、超過勤務時間の削減が成果としてみられた。



⑨取り組み全体の振り返りおよび展望

■報告概要（発表者：溝上教諭）

全体の目標（ゴールイメージ）として、効率化を図って時間を生み出し、ワークとライフのバランスを図る、自分の仕事を振り返り、教師としての力量を上げる、学校全体の教育の質を上げる、これら3つを掲げて、取り組みを開始した。個人とチーム（教科ごと）での取組を行い、カエル会議や「働き方改革通信」の発行・呼びかけ等を通して目標に向けたアクションを促した。結果、全体の仕事への意識の変容や、超過時間の削減といった成果がみられた。

これら取り組みを今後も継続しながら、自分の仕事の仕方を見つめ直し、教師としての力、人としての魅力を磨いていきたい。

3. 総評（クラスペディア吉岡様）

コロナ禍で大変な時期に取り組みを熱心に行っていただき、感謝している。それぞれの教科で多彩な取り組みがなされていた。今回は保健体育科の溝上先生を中心に組みんでもらったが大切にしてくださったのが「ゴールイメージ」。教員としてどんなことを目指したいか、イメージしてもらいたかった。そのことによって何をすべきか浮かんでくると思う。



先日、保健体育科の定例会で振り返りを行ったが、取り組みが当たり前、習慣としてできていることがわかった。また先ほどのグラフのように数値化することで改めて見えてくることもあったと思う。

多くのチームが整理整頓に取り組んだが、有名な片付けのプロが言っているように「ときめくものを残す」ということは仕事上でもいえると思う。「自分が一人の人間としてどうありたいか」をイメージすることはこれに通じることである。「自分が一人の人間としてどうありたいか」というイメージをもって物事を眺める、仕事を振り返る、これを行ってもらいたい。取り組みは終わりでないのでこれからも継続してもらいたい。

4. 山田校長先生より

溝上先生が最後に示してくれたグラフを見るととても嬉しい。

働き方改革からは、教員の在校時間を減らす等をイメージしていたが、教師としての人生、力量に焦点を当てて取り組みを行い、結果としてこのように教員の在校時間の削減ができたことに感謝をしている。私たちの仕事はいろんな側面があり、同時に様々なことをやっている。一つが行き詰るとそこでたくさんの時間がかかってしまう。それを効率的にほぐすと循環が良くなる。今回、教科ごとに取り組みを行った。今後は校務分掌での取り組みという案も出ているので、これらについても検討していきたい。この取り組みに協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

